

実行委員長ごあいさつ

震災後4年目に始まったこうべ1ウォークも、今年で15回目を迎える。一緒に歩いて寄付するというこのアイディアは、神戸復興活動のサンパランシスコNPO関係のお土産で、通称のイベントではなく、市民活動支援を目指す意義込みが斬新であった。全国約100都市で開催されるエイズウォークのなかでもサンパランシスコは最大級で、昨年は2万5千人が参加し、寄付総額は3億円に達したという。

第4回から有志参加型に切り替えたが、当初の心意気を次の世代に引き継ぐために、地元の方々の応援を得て4年前から市民への呼びかけを再開した。前回は、東北の仲間も加わっている。

1ウォークの経路は、神戸の伝統的な下町を回っている。震災のため、古い市街地の形勢は希薄になったが、住居の形は残っていない。まちの復興はひとりの復興だという教訓を、是非、この機会に噛みかいていただきたい。

こうべ1ウォーク2012 実行委員会
実行委員長 小森基晃

しみん基金・KOBÉごあいさつ

「こうべ1ウォーク2012」へご参加頂き誠にありがとうございます。
東日本大震災から1年10ヶ月のときが経過しました。被災地の「復興」には、まだこれからの長い道のりが予想されます。一方で、被災地外では記憶の風化が進んで、日常に追われる人が多いのが現状です。でもだからこそ、ボランティア活動による人と人の「絆」こそが、この状況を克服する最も大切な要件であると、わたくし共は考えています。

阪神大震災の教訓から、このような市民の自発的な助け合いの活動を市民自らで支えていく仕組みとして、「しみん基金・KOBÉ」は誕生しました。以来15年間で延べ144団体に総額約5100万円を助成し、これらによって、地域における支え合いの連鎖を促してきました。これからも、人と人、人と社会、人と自然の「絆」を創る助け合いのことが、当基金の使命と考えています。

ここでの募金は、当基金へ寄付され、毎年実施している助成事業を通じて、様々な分野の市民活動団体へ助成されていきます。今後とも、何卒ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ
理事長 奥田裕子

- ①せせらぎ…土壌の汚染を受けて整備を進めてきたもので、真珠山の湧き水を利用している。せせらぎの湧く歩道にはベンチを設置しており、市民が憩いやすい場となっている。
- ②シューズプラザ…震災から長年のたけしシューズ産業の復興と靴のまちの活性化を目指し、『シューズの元祖は、神戸の元祖だ!』をキャッチフレーズに誕生。各種シューズ展や企画展を実施している。
- ③アジアギャザリー神戸…アジア諸島の国が集まる商業ビル。約8千人のアジア系外国人が住む長田で、アジアとの交流をテーマにした複合施設として2009年7月にオープンした。
- ④水宮公園…地域の防災公園(長田駅北地区震災復興地区復興事業)としての役割を担い、「1004鉄筋大木」が整備され、苦難の道のりを次々に伝えるために「震災復興の碑」が建立された。
- ⑤新長田駅北地区復興地区…震災前は、商業・商業施設やタカシカンパニー(戦後急速に発展し、靴店、靴店、靴店など、地域内の分業でなされていた。)等の工場と混在する形で中小住宅等が立地する住居工業地帯であったが、今回の地震で約8割の建物が大きな被害を受けた。震災後は、そうした分業体制も解体したが、今も靴屋の穴に穴とある「靴屋の看板」や、靴店、店をつくる神楽神物の工場などが残っており、自動車の下駄など多様な仕事を請け負っている。家に行くとお手に入のシューズ(靴)も見かける。



①の場所は、
トイレが利用できます。



- ①大田公園…震災による大規模な被害を防ぎ、地区の人々の避難所となった。倒壊した鳥居の石を使った記念碑。震災直後の街の様子をステンレス板のプレートに収めた「協働のメモリアル」。(復興の基盤)がある。
- ②新長田駅北地区復興地区…震災前は、商店街と靴店長屋等がちな利便性の高い住宅地であったが、今回の地震ではほとんどの建物が壊滅するという大きな被害を受けた。
- ③カトリックたけし教会…多くのボランティアの拠点となった教会。震災で壊滅したが、2007年4月に再建された。「パープルドームたけし」は自費で移設された。NPO法人たけしコミュニティセンターが多文化共生の拠点となり多くのNPOが活動している。
- ④新長田駅北地区復興地区…1999年3月の「コミュニティ宣言」後、まちづくりの精神をハードからソフトへと移行し、地域をネットワーク化する組織「新長田ふるさとネットワーク」を創設。(日とみえ)活動と(ひとづくり・仲間づくり・生活づくり)の思想でコミュニティでの(ふたりのやりとり)を目指している。
- ⑤若狭公園…震災復興地区復興事業で整備された樹木公園。住民の意見で道路を挟んで2つの公園が隣接する。道路を閉鎖すると一体化して大きく使える。頻りに防災訓練が行われ、地域の防災拠点になっている。
- ⑥若狭公園と鉄人28号…次項の新長田駅北地区復興事業として、防災拠点とするために若狭公園が大きく整備されている。公園内には、横山光輝氏の代表作の一つである「鉄人28号」が、身長18mという超ビッグサイズの銅像型コミュニティとして2009年9月に設置された。
- ⑦新長田駅北地区復興地区…震災により甚大な被害を受けた市街地の復興と防災公園等を中心とした防災拠点の整備。地域の活性化や創出にふさわしい都市環境の整備を図るために実施される。歩行者の安全が図られている。
- ⑧復興と復興のベンチ(神戸の壁)…若狭町の公設民営の防災大壁は、神戸大震災と大震災の大壁に替え、歴史の証人として「神戸の壁」と呼ばれるようになった。復興事業で移設された。地中の基礎部分と柱の間にデザインされ、「アスファルト」の地下通路に設置されている。
- ⑨大正商店街…1. 創設が完全。歴史的な被害を受けた。モダンな商店街として再建され、大正商店街らしい人懐かぬイベントが各種開催されている。大正時代の生活空間である土間と階段を再現した「大正ハイカラ散歩(仕事)」が開設されている。
- ⑩地域人材支援センター(旧二葉小学校)…1929年に建設され、戦災・震災を乗り越えた地域のシンボルである旧二葉小学校が、NPO法人ふたばを指定管理者として、市民の地域活動への参加支援や地域活性化を担う人材育成の拠点として活用されている。震災関連の展示や神戸の古い写真アーカイブもある。

- ⑪新長田…震災後、多くのボランティアグループが川沿いの公園に拠点を設け活動した。その後、2度において川が氾濫したが、2009年に新長田川シールドが改築された。
- ⑫新長田…西地区復興地区…震災前は靴店長屋が並び、商店街や家内工業を中心とした中小規模の工場が立地する利便性の高い住宅地だったが地震で8~9割の建物が大きな被害を受けた。
- ⑬古民家を移築した集会所…市街地(復興地区)に建てられている古民家を移築して作られた集会所。5~7日自治会集会所、商業地区の住民たちの交流を促す場となっている。
- ⑭新長田公園…震災のひびきを防止し、公園内に避難した人々を大気から守ったガスノがある。震災時は10mあったが、倒れた木の上を切り取って8~8.5mとなっている。
- ⑮新長田公園…地味の方々に整備された公園で、この地域の120人がくつろぐ場所を示す地図が刻まれている「復興」のメモリアルが設置され、倒壊した電柱が保存されている。
- ⑯共同住宅「みくら」…12件が集まって建てた共同住宅。1階の地元企業との協力による「地域コミュニティスペース(シューズプラザ)」を拠点に、まちコミュニティ活動はまちづくり活動を展開している。

- ⑰KOBÉ 三國志ガーデン…阪神大震災のまちおこしの一環として「三國志」をテーマとした展示施設の一つで、三國志復興をテーマとした「三國志ジオラマ」「三國志体験館」「三國志文芸館」「三國志図鑑」の4施設から構成された五感で楽しめる複合型のミュージアム。
- ⑱震災ミュージアム…震災で発生した様々な助け合いの心をいつまでもとどめ、防災知識の普及啓発に努める場所として、また震災の記憶・体験・教訓を伝える拠点として整備された。
- ⑲KOBÉ 鉄人三國志ギャザリー…震災客に街を回遊してもらおうと2009年12月にオープン。鉄人28号の製作時々の上映や、三國志に登場する英雄・諸将の等身大オブジェを展示している。
- ⑳六甲通商店街…かつては神戸有数の繁華街だったが、周辺企業が撤退し大震災もあって店舗が減少した。「六甲通お宝屋マイル」の取り組みや、横山光輝氏(鉄人28号の作者)の偉業を顕彰する常設展示会館「六甲通ごきげん」三國志をテーマにした新展示「復興事業」がある。
- ㉑五市町…80年以上の歴史を誇る、伝統的な加工・販売技術を持つ。こだわり専門店が多い。アジア系食品や物産を扱う店もあり、他の市場にない面白いもの場だと評されている。昔ながらの下町の人情と温もりが漂う市場。
- ㉒本町商店街…震災で多くの店舗が倒壊したが、「ビッグハート」をシンボルとして、ふれあいコンサートや長年こたえまつり、商店街・緑化・防災などのイベントを多数実施している。修学旅行生対象の絵画教室も好評。
- ㉓神戸協同病院…震災では断片的に夜中まで診療にあたり、震災後の復興には地域住民と一緒にまちづくりに参加してきた。地域から頼られる存在になることを理念として、地域住民とコミュニケーションをとり、病院という枠を超えて地域のまちづくりに力を入れている。